

ヨハネの福音書 (50)

「大祭司の祈り (2) 弟子たちのための祈り」

ヨハ 17 : 6~19

1. 文脈の確認

- (1) 前書き (1 : 1~18)
- (2) イエスの公生涯 (1 : 19~12 : 50)
- (3) イエスの私的奉仕 (13 : 1~17 : 26)
  - ①最後の晩餐 (13 : 1~30)
  - ②階上の間の説教 (13 : 31~16 : 33)
  - ③大祭司の祈り (17 : 1~26)

2. 注目すべき点

- (1) 弟子たちへの教えは、勝利のことばで終わった。
  - ①「わたしはすでに世に勝ちました」(ヨハ 16 : 33)
  - ②十字架、復活、昇天が予見されている。
- (2) この段階で、イエスの働きは預言者から祭司に移行した。
- (3) ここでの祈りは、聖書の中の最高の祈りである。

3. アウトライン (大祭司の祈り)

- (1) イエス自身のための祈り (17 : 1~5)
- (2) 弟子たちのための祈り (17 : 6~19)
- (3) 将来の信者たちのための祈り (17 : 20~26)

今回は、(2) を取り上げる。

イエスは新約の共同体の核のために祈られた。

その祈りを 3 区分して学ぶと、教会誕生の確実性が見えてくる。

I. 父から子に与えられた少数の人たち (6~8 節)

1. 6 節

Joh 17:6 あなたが世から選び出して与えてくださった人たちに、わたしはあなたの御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに委ねてくださいました。そして彼らはあなたのみことばを守りました。

- (1) この小さな群れ (11 人の弟子集団) は、父から子に与えられたものである。

- ①彼らは、世から選び出された。
- ②ヨハ 17 章には、「世」ということばが 18 回も出てくる。

\* 「世」とは、神に敵対する勢力、システムのことである。

③父は彼らの子に贈り物として与えた (ヨハ 6 : 37)。

(2) 子は彼らに、父の御名を現した。

①御名とは、父のご人格、属性、特徴などである。

②イエスは、自分を見た者は父を見たと言われた。

③イエスは父 (契約の神としての父) を完全に明らかにした (完結した行為)。

④御名は、契約関係の保証である。

(3) 彼らは、父のみことばを守った。

①イエスは、彼らをほめておられる。

②彼らは、イエスが語る父のことばに応答した (完了形。今も続いている)。

③彼らは完ぺきではなかったが、献身の姿勢は正しかった。

④過去の失敗や、これから起ころうとしている裏切りへの言及は、一切ない。

## 2. 7~8 節

Joh 17:7 あなたがわたしに下さったものはすべて、あなたから出ていることを、今彼らは知っています。

Joh 17:8 あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたのもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。

(1) 子は父を完ぺきに啓示した。

①子は父のことばを彼らに伝えた。

(2) 今彼らは知っている。

①父と子が一つであることを信じた。

②その状態が続いている (完了形)。

③「今」とは、長い訓練と教えを経た上で到達した十字架直前の段階を指す。

④弟子たちは、イエスの教えも働きもすべて父から出ていることを悟った。

⑤旧約の啓示は、新約の使徒的証言へと橋渡しされる。

⑥以上のことを前提に、イエスは弟子たちのために大祭司として祈られた。

## II. 弟子たちの守りを願う祈り (9~16 節)

### 1. 9~10 節

Joh 17:9 わたしは彼らのためにお願いします。世のためにではなく、あなたがわたしに下さ

った人たちのためにお願いします。彼らはあなたのものですから。

Joh 17:10 わたしのもはすべてあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました。

(1) これは、11 人のための祈りである。

①これは、世のための祈りではない。

\*世は不信仰であり、その状態に保たれる必要はないのである。

②これは、教会形成のための特別な祈りである。

\*この祈りは、後のすべての信者のための祈り (17 : 20) へと展開する。

(2) 子のもは父のもの、父のもは子のものである。

①弟子たちは、本質的に父に属する存在である。

②弟子たちは、父と子の一体性のゆえに、子のもでもある。

③子と父は、同じ権威を有する神である。

\*人は神に向かって、「わたしのもはみなあなたのもの」と言える。

\*しかし、「あなたのものはわたしのものです」とは言えない。

(3) 「わたしは彼らによって栄光を受けました」

①これは、不完全な弟子たちにとって大いなる励ましと慰めである。

②将来の宣教活動において、さらに顕著になる。

## 2. 11 節

Joh 17:11 わたしはもう世になくなります。彼らは世にいますが、わたしはあなたのもとに参ります。聖なる父よ、わたしに下さったあなたの御名によって、彼らをお守りください。わたしたちと同じように、彼らが一つになるためです。

(1) 状況が大きく変化しようとしているので、この祈りが必要となる。

①イエスは世を去り、父のみもとに行く。

②弟子たちは、世に残される。

③イエスに向けられていた「世からの憎しみ」は、弟子たちに向けられる。

④弟子たちを守る役割は、父に委ねられる。

(2) 御名の中に保つ。

①父は、聖なる父であり、罪に汚れた被造世界からは分離している。

②イエスを信じた弟子たちは、聖なる者とされている (世からの分離)。

③弟子たちは、新しい契約の共同体として、神の性質に基づく保護下に置かれる。

(3) その目的は、彼らが一つとなるためである。

①彼らの性質や目的がイエスに似たものとなる。

②父と子が一つであることが、そのモデルとなる。

③彼らの一致と守りは、新約の啓示と福音が正しく伝えられるための不可欠条件。

### 3. 12 節

Joh 17:12 彼らとともにいたとき、わたしはあなたが下さったあなたの御名によって、彼らを守りました。わたしが彼らを保ったので、彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためでした。

(1) イエスは、良き羊飼いとして彼らを守った。

①これは、イエスの地上生涯への言及である。

(2) 唯一の例外は、イスカリオテのユダである。

①彼は、滅びの子である。

②ユダは羊の一員ではなかった。最後に、それが明らかになった。

③彼はイエスを売り渡すことで、知らないうちにサタンの手先となった。

④ユダの裏切りは、詩 41 : 9 の成就である。

⑤彼は、自発的な選択によってその役割を担った。

### 4. 13～14 節

Joh 17:13 わたしは今、あなたのもとに参ります。世にあってこれらのことを話しているのは、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためです。

Joh 17:14 わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではないからです。

(1) イエスが励ましのことばを語っている理由

①イエスが死んだ後、弟子たちはイエスのことばを思い出すようになる。

②それによって、イエスの喜びが満ち溢れるようになる。

③イエスの喜びとは、悪に打ち勝ち、永遠のいのちをもたらしということ。

(2) 父の守りが必要な理由

①イエスは父のことばを彼らに与え、彼らはイエスのようになった。

②イエスが憎まれたように、彼らも世から憎まれる。

③彼らは、新約共同体の核である。それゆえ、霊的戦いの標的となる。

### 5. 15～16 節

**Joh 17:15 わたしが願うことは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。**

**Joh 17:16 わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。**

(1) 神の計画は、彼らを世から取り去ることではない。

- ①むしろ、世にあって彼らを悪い者から守ることである。
- ②彼らには、この世にあって果たすべき使命が与えられていた。

(2) 悪い者（男性名詞と解釈）とは、サタンのことである。

- ①サタンは、この世の頭である。
- ②信者を破壊するためならなんでもする。
- ③しかし、サタンの意図が成就することはない。
- ④神は、ご自身の民を守られる。

(3) イエスがこの世に属していないように、弟子たちもこの世のものではない。

- ①コロ 1 : 13

Col 1:13 御父は、私たちが暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

- ②この世からの誘惑を受けたとき、この聖句を思い出すべきである。

### III. 弟子たちの聖めを願う祈り (17～19 節)

#### 1. 17 節

**Joh 17:17 真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です。**

(1) 聖めとは、この世からの分離である。

- ①この世の価値観、罪、目的からの分離である。
- ②神の働きのための分離である。

(2) 聖めの方法は、真理のみことばである。

- ①神のことばを学ぶなら、その人は聖め別たれる。
  - \*心と知性が変化する。
  - \*内面の変化は、生き方の変化をもたらす。
- ②この原則は、現代の信者にも適用される。

#### 2. 18 節

**Joh 17:18 あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。**

(1) 父が子を世に遣わした。

- ①子の使命は、父を啓示することである。
- ②イエスは、すべての信者のモデルである。

(2) イエスは弟子たちを世に遣わした。

- ①父を知らしめることが、弟子たちの使命である。

### 3. 19 節

**Joh 17:19 わたしは彼らのため、わたし自身を聖別します。彼ら自身も真理によって聖別されるためです。**

(1) 「わたしは彼らのため、わたし自身を聖別します」

- ①イエスの性質は、聖めを必要としていない。
- ②このことばは、十字架の死への献身を意味している。
- ③イエスの死がなければ、宣教もない。

(2) 真理は弟子たちを聖め別つ。

- ①イエスの贖いの死を信じる者は、この世から聖め別たれる。

### 結論：今日の信者への適用

#### 1. 自分の出所とアイデンティティを知る。

- (1) 自分が神によって生まれたという自己認識が、人生の方向性を定める。
- (2) 信者は、みことばを通して「神の性質と御心」を知る必要がある。

#### 2. 世の中での守りを求める。

- (1) 世の中に置かれているのは、使命を果たすためである。
- (2) 信者は神の所有物であり、その守りの中にある。
- (3) 祈りの焦点を、自分に託された人に向ける。

#### 3. 真理による聖別を受け入れる。

- (1) みことばの学びによって、この世からは区別される。
- (2) 信者は、世にあっても世から出た者ではない。
- (3) 聖別の目的は、宣教の使命を全うするためである。

#### 4. 宣教のために遣わされている自覚を持つ。

- (1) 奉仕や宣教の背後には、キリストの犠牲による聖別が土台にある。
- (2) 「派遣されている者」である自覚が、日常生活の方向性を変える。